

くつろぎ

こんなことがあったとき

「特養かわら版」 令和2年5月号

このご時世、外出は出来ませんが、施設の中でも楽しみは創れます。という訳で、色々なクラブ活動が盛り上がっています。小さな活動ではありますが、ちょっとした笑顔、それが大事ですね。

折り紙クラブ



書道クラブ



今、クラブ活動がちょっとブームです

料理クラブ



化粧クラブ



こんなことやります

毎月実施していた音楽療法は、お休みです。

宇賀神床屋(毎月)もお休み、代わりに職員(有資格)が対応します。

5月 4日(月) 化粧クラブ(午前)

5月10日(日) 書道クラブ(午後)

5月17日(日) 折紙クラブ(午後)

5月20日(水) 料理クラブ(夕方)

毎週土曜日 やばしら歯科往診(午後2時〜)



元ちゃんの「やんわりした」人生の歩み方

自己責任ってなんですか？

私が嫌いな言葉の一つに『自己責任』が挙げられます。

社会の中で生きていく以上、そして年齢を重ね立場が変わることに様々な場面で“責任”という言葉が付いて回ります。責任を取ることは、社会人として然るべき振る舞いなのは何となく理解しています。何となくなのは、『責任を取る』とはどのような事なのかは非常にあいまいなことだからです。

そして、いつからか個人を責め立て弱者へと追い込もうとする手段として『自己責任』という言葉が謳われ始めました。

例えば：

・怪我や病気をしたのは、自己責任である。

・事故や被害に合うのは、自己責任である。

・生活が困窮しているのは、自己責任である。

…その状況になったのは、自己責任である。

確かに、事前に周囲からの忠告・助言があったのにも関わらず、身を投じた結果として痛い目に遭うのなら、それは今挙げた自己責任と言え

るのかも知れません。

しかし、被害に合った人、厳しい状況に陥ってしまっただけの人達も、必ず成功する未来の確約なんて持ちえない中で、それでも、それぞれが責任をもち、使命や役割を持ち、やむを得ない状態だと分かりながらも何とか踏みとどまって耐えて、その結果が望む結果にならなかっただけで、傷ついた人に追い打ちをかけるように「それは自己責任だ」と責める必要はないはず

です。病気になる人なんて、なおさらです。

しかし、今使われている『自己責任』の多くは、

相手を非難・罵倒・誹謗中傷、相手を見下した

い時に使われている気がします。

「責任」という言葉の意味は、「人が引き受けてなすべき任務」とあるので、何か行動を起こした時に、その結果に対処すること…それが個人の責任となります。本人の自由意志に基づいて行動したのだから、その結果の後始末をするのも自分自身ならば、その責任を他者が糾弾するのはおかしい話です。それに相手に責任を押し付けながら、自分は無関係で無責任な人ほど、声は大きくなります。

おそらく、人を更に追い打ちかけるように寄って集って叩きたがる人は、自分の方が大変だとか、苦労してる、辛い思いをしているって叫びたいだけの人です。『自己責任』というそれっぽい言葉を振りかざして、いかにも自分が正義のような顔をしながら、実は自身の不満や憂さ晴らしのために、都合よく『自己責任』という言葉を使っているにすぎないと思っています。

よほどの出来事でもない限り、一個人に責任の全てを負わせることは無意味だと思えます。法律を犯す人も、何かの事情がそうさせてしまった人であれば、同じ社会に生きる自分自身も他人ごとではありません。

誰もが加害者にも被害者にもなり得るのだから、なおさらそう思ったりします。

職員紹介コーナー

特養で働き始めて今年で7年目になります。奥田彩です。

最近はお掛けすることが出来ずに、家で あつまれどうぶつ森をひたすらやってる日々です。癒されますね。

最近はお家でゆっくりしたり過ごすのもいいなと思うようになりました。

毎日手洗い、アルコールのし過ぎでかなり手が荒れて痛いです。

コロナが終息しても、手洗い、アルコール、うがい、マスクの着用が癖になりそうです。

きちんとした対応をして、これ以上感染が広がらないよう、明日は我が身と思い、日々仕事にきています。

こんな私ですが、今年度も宜しくお願ひ致します。



編集後記

はじめまして。

新年度を迎え、今回から「つろぎ新聞」の編集担当が交代

新任の松本顕太です。ご入居者がひまわりの丘でどのように過ごされているのか、職員がどのような取り組みを行っているのか、分かりやすくお伝え出来るよう頑張ります。

昨年7月に子どもが生まれ、5月には初節句を迎えようとしています。

両親を呼んで、お祝いをする予定でしたが、このご時世ですので、

気持ち良く集まれる時まで延期しました。

そんな世相を他所に、息子は元気です(4月で9か月になりました)。

もし自分がコロナで隔離生活になったら…そう思うと、息子と関われる

日常がとても貴重で、愛おしく感じます。

普通の1日ってすごく幸せなことですね。



息子の育太です



特養生活相談員 畑中 元

発行 ひまわりの丘 特養 広報部 畑中元(編集長)・松本顕太